

## 第9回国際老年学会協会マスタークラス（タイ）に参加して

服部ゆかり

（日老医誌 2018；55：695）

国際老年学協会（The International Association of Gerontology and Geriatrics：IAGG）が主催するマスタークラス（Master Class on Aging：MCA）が2018年5月27日から3日間、タイ・バンコクで開催され、この度参加させて頂きました。

じりじりと照り付ける太陽、少し外に出ただけで汗が噴き出す程の蒸し暑い気候でしたが、研修会場は常夏の国にいることを忘れてしまう程、涼しく快適な環境のもとで行われました。タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ネパール、ミャンマー、中国、台湾、韓国、日本の11か国40名程度が参加し、今年のテーマは「認知症」でした。東南アジアのみならず東アジアでも高齢化は進んでおり、認知症への取り組みは重要な課題です。老年医学のエキスパートの先生方が集まり、老年医学を専門にする40名程度の医師を対象に、授業を行い、授業毎に質問・議論するといった、まさに「GeriatricianのためのGeriatrics講座」でした。IntroductionからEnd of Lifeまで様々な視点から認知症について学び、どの授業もとても興味深く、あっという間に時間は過ぎていきました。また、4つのグループに分かれての症例検討と研究発表もスケジュールに組み込まれていました。研究発表では、それぞれの参加者が行った研究について、スライドを使い15分の口頭発表を行いました。発表毎に指導担当の先生方からアドバイスを頂いたり、意見交換をしながら、どの生徒も自分の研究に情熱を持って取り組んでいることを知り、とても刺激になりました。

今回、研修で得た知識はもちろんですが、何よりも嬉しかったこと—他国の老年科医師と交流し、友人になったこと—です。休憩時間や夕食会に様々な国の生徒と、各国の価値観や死生観、高齢者を地域でどう支えていく



写真 マスタークラスの生徒達と

かを話しあい、様々な視点を学ぶことができました。生徒達は同じホテルに宿泊するので、夜も皆で集まり交流を深めました。現在、育児と仕事のバランスがうまく取れずに悩むことがよくある私ですが、国を越えて私と同じような境遇の女性医師も多くおり、皆で励ましあえたのもとても嬉しかったです。研修会の最終日、開催国のタイの医学部長から「今回の開催は、経済的にとても大変なものではあったが、老年病科医を育てる必要が今のアジアにはあるから、どんなことをしてでも実現したかった」と、また老年病科の Assanchatai 教授が「Work together, Be stronger」という言葉を忘れないで下さい。これからも皆で頑張りましょう」とおっしゃって下さったことは忘れられません。

最後に、このような機会を頂きました国際老年医学会ならびに日本老年医学会に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。